

平成十八年度
修士論文・卒業論文題目

大学院文学研究科

〈歴史学専攻〉

荒尾 裕治 政党内閣期における大分県下の

選挙分析 〓第2回選挙を中心

に〓

川井 貴雄 北朝後期に於ける門下省の形成

過程の一考察 〓高氏政権下の

門下省を中心に〓

佐藤 紘一 近世後期における大庄屋制の考

察 〓島原藩豊州御領組大庄屋

を題材に〓

重松 正道 対馬藩田代領における米の廻

送について 〓青木家文書によ

る赤穂坂越廻船と田代領につい

て〓

舌間 誠子 近代に於ける女子自立への過程

〓大分県の女子教育を中心に〓

橋本 賢一 長崎奉行所『犯科帳』にみる無

宿発生のメカニズムと『片付』

について

平野 貴之 植民地期、西スマトラにおける

イスラーム教育の展開

上原 翔平 古代における(水をめぐる)祭

祀と地域社会

木村 太陽 多田院鳴動の発生状況と権力の

対応

串間 聖剛 人吉藩における造林政策の研究

〓公役造林を中心に〓

トマスオコナー 沖繩返還とアメリカ外交(英文)

永野 華愛 前四世紀前半のマケドニア王国

の対イリュリア政策

宮本 高志 大分県の葬送儀礼の研究

〈文化財学専攻〉

鶴久森 彬 槍先形尖頭器・有舌尖頭器の研

究

大神 紀子 富貴寺大堂壁画外陣南小壁(部

分)の現状模写

沖野 誠 船野型細石核の研究 〓形式分

類からの考察〓

沖野 実 剥片剥離技術の有用性 〓四国

西部地域を中心として〓

川口 雄也 九州における細石刃の志向性

川崎 弘美 世紀末ウィーンにおけるコロマ

ン・モーザーの空間デザインに

ついて

國政 晶子 豊後高田市「昭和の町」につい

て 〓考察・分析から環境復元

へ 〓 如意輪観音(奈良国立博物館蔵)

現状模写

谷山 こそ恵 おおいたの火祭り 〓火を用い

た祭礼行事から民俗文化を読み

解く〓

豊田 沙和美 古墳時代における裝飾付太刀の

研究 〓九州を中心に〓

早田 紘子 紙資料の劣化の実態とその保存

対策 〓天草アーカイブズを事

例として〓

古沢 恒平 鎌倉幕府の成立と東国在地社会

のネットワーク

細井 雅希 芸能化した杖・棒術 〓大分

県の民俗芸能「杖」の多面的考

察〓

杉田 小百合 多能村竹田「栄貴萬年図」の模

写制作

三谷 紘平 石造物と中世共同体

史学科

〈日本史専攻〉

- | | | | | | |
|-------|---------------------------------------|-------|------------------------------------|-------|---|
| 赤峯 由美 | 豊後のキリシタン文化と排耶活動 | 浦富可奈子 | 大奥の役割と政治的影響 | 清松 舞 | 都市再生事業後における観光地としての鉄輪温泉のイメージ |
| 朝山 昇平 | 黒田長政について | 江口 正晃 | 佐賀藩藩校弘道館の教育改革について | 久住呂和樹 | 石田三成について |
| 天津 天 | 六〇年安保期の日本の政治
— 岸内閣を中心に — | 枝垣 健太 | 海賊の経済的な特権について | 工藤 裕司 | 池田内閣時代の社会変動 |
| 池内 祐介 | 平賀源内 | 大竹 俊成 | 「米百俵」の精神がもたらしたもの | 黒田 哲史 | 日向伊東氏と木崎原の戦い |
| 石橋 緑 | 小倉藩における検地帳の研究
— 宝永三年豊前国上毛郡尻高からみる — | 岡藤 裕太 | 鎌倉後期における長門国の守護制度について | 近藤 紘司 | 卓球の歴史 — 荻村伊智朗を中心に — |
| 石本 圭 | 日本人の対朝鮮意識の変化
— 日本映画を通じて — | 大野 公裕 | 日本プロ野球史の研究 | 坂本 祐介 | 筑前藩における勤王派の興亡
— 五卿問題から乙丑の獄にかけて — |
| 井上アヤコ | 大分県における商品流通について | 岡本 裕亨 | 武田信玄についての考察 — 人間武田信玄に迫る — | 坂本龍太郎 | 空手道、柔道、合気道の発祥と発展 |
| 井上 慎也 | 大坂城と太閤秀吉 | 緒方 希里 | 上杉三郎景虎について — 北条家としての役割とその人生 — | 首藤 裕一 | 東京裁判にみる戦争指導者たち
— 大分県出身者を中心に — |
| 今川 卓 | 真田家について | 沖野真由美 | 大奥 | 島津 将拓 | 明治初期の東アジア外交 — 琉球・清を中心に — |
| 上田明日輝 | 和親条約がおよぼす幕府への影響 | 小野 一徹 | 天正遣欧使節と九州のキリスト教 | 下川 大智 | 進歩党聯合運動における九州同志会の動向 |
| 上野 雅也 | 戦後日本史におけるマンガの隆盛 | 小幡かずみ | 鎌倉仏教の正統と異端 | 白井 鉄彌 | 中世後期における刀・鎧の変遷について |
| 上原 啓介 | 六郷満山について | 柿内 明 | 日本競馬の歴史 | 城 雅文 | 『サンダカン八番商館』のからゆきさんにおける「底辺女性史」という位置づけの再考 |
| 上脇 理絵 | 織田信長と本能寺の変 | 柏田 美佳 | 北条泰時と連署制の形成 | 實崎 信介 | 伯耆の牛馬にたいする治療について |
| 浦塚 貴雄 | 福岡藩における本藩・支藩の関係 — 支配構造と藩主関係を中 | 鹿野 直子 | 今昔物語集における医療と宗教について | | |
| | | 川口 洵 | 瀬戸内の海賊村上氏についての一考察 — 海賊の全盛期から衰退まで — | | |

いて

永易 仁志 日本の敗戦 —ミッドウエー海

平嶋 勝喜 野村克也の研究 —その野球人

高田 三星 刀剣の変遷

新田 知広 武吉と毛利水軍

不動寺宏紀 佐野常民の研究 —日本赤十字

田口 剛士 白杵の町・都市デザイン —白

西 晃平 天草・島原の乱の発生要因と天

古門 良規 大友政権と耳川合戦

田中 孝太 萩藩校明倫館と私塾

西山 紘史 大隈重信の研究 —明治十四年

松尾 秀二 石垣刻印が語るもの

田中 隆志 渋沢栄一の社会・慈善事業とそ

服部 翔 日本のマンガ・アニメ・ゲーム

松金 良彦 江戸初期の城郭について

田中 勉 日本中世の軍事技術

橋本 桂一 明智光秀と本能寺の変について

松琴 崇志 六郷満山仏教美術と太郎天像に

田中 裕子 お歯黒と官位の関係について

濱田 善郷 関ヶ原合戦における豊臣系武将

松山 元気 奄美の日本復帰について

谷本 学 香川県成立過程の研究

玉永 裕貴 熊本県近代政治史の研究 —実

丸山 暁平 島津氏と新納忠元

塚本 美緒 戦国大名毛利氏領国の編成

林 徹也 中世地域社会における寺社

南 豪 日本人の愛国心について

辻 亮輔 鎌倉幕府の成立時期について

原口 英晃 名補佐役豊臣秀長

嶺井 雄太 策士・黒田如水の生涯

津留村卓陽 別府温泉の歴史と別府温泉によ

馬場 一棟 文禄・慶長の役について

満留 卓也 島津家と豊臣政権

富岡 守朗 福沢諭吉の研究 —その文明観

東 隆秋 重光葵の研究 —終戦前後を中

村瀬 達郎 近世初期の東アジア外交につい

富田 竜之 明智光秀と本能寺の変

久行 理紗 八月六日のヒロシマ —平和記

本下浩一郎 中世松浦党の研究

中村 公紀 池田勇人内閣と日本経済の変貌

肱岡 舞子 十八世紀前期の城下町の防衛

森 健史 大村純忠とキリスト教

中村 大地 九州北西部海路から見る大名間

日野 陽介 日本自動車工業発達史 —富士

山川 祐太 鈴木重成の死について

交流について —中世戦国期薩

重工を中心に—

山口 浩平 河野氏の系譜について

摩島津氏と宇久五島氏の観点か

平井 泰貴 源平合戦における緒方三郎惟栄

山下 智史 戦国期の島津氏について

ら—

事技術力について

山田 明輝 太平洋戦争時における日本の軍

山本 裕介 福岡県における廃藩置県の位置

付け

山本 遼子 宇佐八幡宮の信仰について

渡邊 智光 教育基本法と教育勅語の比較研究

究

渡邊 留美 鎌倉將軍府と足利義直

〈東洋史専攻〉

赤井 傑 秦末・漢初における儒家の動向

足立 貴一 韻について漢詩より見る

安達 大樹 書聖王羲之とその周辺

岩崎 大士 イスラム教の商業観と商業の問題点について

木寺しのぶ 明代の海外貿易について

桐川 大樹 曹操とその集団について

久保山雅代 則天武后 — 中国唯一の女帝 —

隈田原希美 日中関係と靖国神社参拝問題

古井田信道 アジアにおける日本商船隊の発達 — 戦争による自立と依存 —

小林 結香 漢代における河西四郡の経営

嶋村ひとみ 白居易の詩から見た唐の政治と社会

杉本 優 唐代における宦官と政治

田中 郁巳 モンゴル帝国の内乱と衰退について

堤 佳那 イスラーム世界における都市の形成と暮らし

遠矢 卓洋 宋代兵制について

中上 博文 後漢末・三国時代の蜀の支配について

中島 幸宏 新疆省の成立について

野見山 大 「三国志演義」における魏延像

春口 雅幸 ホイアンの日本町の文化

藤井孝士朗 孫文と三民主義

三隅 誠人 春秋の覇者斉の桓公

溝川 友美 唐、則天武后期における宰相について

諸富 巧助 宋代の殿試について

山内 清香 ヒッタイト帝国と製鉄について

山口佐和子 警女を中心としてみる近代への移行過程における民衆の意識変化

山崎憲太郎 貨幣からみる古代インド

山田 拓 古代エジプト人の生活・刑罰

山中 良介 インドにおけるヒンドゥー教信仰

横山 郁恵 シルクロードの歴史 — オアシス路について —

吉永 幸司 列仙伝・神仙伝から見る仙人の動向

〈西洋史専攻〉

江口 佳奈 ルネサンス期フィレンツェの政治と経済 — ロレンツォ・デ・メディチを中心として —

斧田 沙織 反ナチス抵抗運動の展開 — 共産党・社会民主党の反ナチス政策 —

河村 祐希 カエサルからアウグストゥスへ — スパルタクス反乱と軍事的実力者の登場 —

佐藤 香織 古代ローマ帝国とキリスト教 — 迫害から公認へ —

三井 智恵 古代ローマ期、エジプトとキリスト教の普及 — コプト教を中心に —

宮崎 英華 温泉観光地における観光資源の活用に関する研究 — 昭和初期の別府温泉を事例として —

元尾 仁隆 ルネサンス期、メディチ家の衰退

足立 杏美 低地マヤにおける宗教 — 人身供犠を主として —

井上 慎也 マヤ文明における来世観 — 洞

〈世界文化史専攻〉

井上 慎也 マヤ文明における来世観 — 洞

井上 慎也 マヤ文明における来世観 — 洞

井上 慎也 マヤ文明における来世観 — 洞

窟信仰を中心に―

大崎 春翔 ラムセス二世とアブ・シムベル
神殿

神殿

文化財学科

〈考古学・埋蔵文化財専修〉

合澤 啓完 亀塚古墳と大和政権

青木 伸介 大分県における女性首長墓の動
向

向

秋山 英洋 高知城の歴史的意義と保存活動
の現状について ―高知城の今
までとこれから―

の現状について

阿部 宝之 備前焼の考古学 ―備前焼の成
立過程―

備前焼の考古学

荒木 康孝 亀塚古墳と古墳時代の海部地方
について

亀塚古墳と古墳時代の海部地方
について

李 在 鎮 栄山江流域における前方後円墳
の考察

栄山江流域における前方後円墳
の考察

飯野 繭子 豊前の古代寺院について ―椿
市廃寺を中心にして―

豊前の古代寺院について

伊藤 舞 宮崎県高原町立切地下式横穴墓
群出土鉄製遺物の保存修復

宮崎県高原町立切地下式横穴墓
群出土鉄製遺物の保存修復

―アクリル樹脂による比較実
験―

アクリル樹脂による比較実
験

伊藤 正顕 姫路城とそれについての歴史

坂本也寸志

鉛同位体比法を用いた青銅遺物

中筋 巧

縄文時代の石斧柄 ―縄文時代
の木製品―

上田 晃史

小郡遺跡群からみた群衛につい
ての研究 ―上岩田遺跡と古代
の日本との関係―

江口 陽祐

上野原遺跡と南九州の縄文時代
早期について

大野 益広

大友宋麟とその遺跡 ―戦国期
の豊後―

緒方 孝浩

近世陶磁器の制作技術と保存と
継承 ―小鹿田焼を中心とし
て―

嘉村 哲也

甕棺墓の形式的変遷からみる地
域的特性について―佐賀平野を
中心として―

古賀 丈之

福岡県における須恵器の系譜
―古式の須恵器窯跡を中心とし
て―

坂井 由葉

熊本県における縄文時代の埋葬
について

坂本 梢

装飾古墳壁画にみる古代人の他
界観 ―肥後菊池川流域の装飾
古墳を中心として―

坂本 翼

古代豊後国海部の成立と展開
―中安遺跡と城原・里遺跡遺跡
を中心にして―

鶴我 公一

青銅製品の繰り返し製造による
鉛同位体比の変化の研究

玉城乾一朗

大分県南西部における横穴墓群
について

田中 里奈

宮崎県のナイフ形石器について

天竺桂 進

蛍光X線分析法による弥生式土
器の産地推定

高橋 剛

九州出土の三角縁神獸鏡からみ
る大和との関係

のグループピングに関する研究
―弥生時代の銅剣を例にとつて―

塩見 達也 蛍光X線分析を用いた黒曜石の
研究

杉村 大輔 縄文時代における釣針による西
北九州と韓半島の交流

園山 大介 加藤清正と熊本城―加藤清正
の人生と熊本城築城における城
下町の整備―

高橋 剛 九州出土の三角縁神獸鏡からみ
る大和との関係

高橋 佑典 立岩遺跡からみた鏡と国際社会

高山 博史 王塚古墳についての研究

田中 広大 北部九州装飾古墳の保存活用と
その問題点 王塚古墳と竹原古
墳

田中 里奈 宮崎県のナイフ形石器について

天竺桂 進 蛍光X線分析法による弥生式土
器の産地推定

高橋 剛 九州出土の三角縁神獸鏡からみ
る大和との関係

高橋 佑典 立岩遺跡からみた鏡と国際社会

高山 博史 王塚古墳についての研究

田中 広大 北部九州装飾古墳の保存活用と
その問題点 王塚古墳と竹原古
墳

田中 里奈 宮崎県のナイフ形石器について

天竺桂 進 蛍光X線分析法による弥生式土
器の産地推定

高橋 剛 九州出土の三角縁神獸鏡からみ
る大和との関係

高橋 佑典 立岩遺跡からみた鏡と国際社会

高山 博史 王塚古墳についての研究

田中 広大 北部九州装飾古墳の保存活用と
その問題点 王塚古墳と竹原古
墳

田中 里奈 宮崎県のナイフ形石器について

天竺桂 進 蛍光X線分析法による弥生式土
器の産地推定

高橋 剛 九州出土の三角縁神獸鏡からみ
る大和との関係

高橋 佑典 立岩遺跡からみた鏡と国際社会

高山 博史 王塚古墳についての研究

田中 広大 北部九州装飾古墳の保存活用と
その問題点 王塚古墳と竹原古
墳

田中 里奈 宮崎県のナイフ形石器について

中村雄一郎 北部九州における小銅鐸について

細井 彩香 近畿と九州における前方後円墳の築造企画について

山口亜希子 新聞紙の劣化と保存について

丹生 純嘉 白杵地域における古墳文化について

杉尾 琢磨 熊本城の復元と保存・活用について

横尾 明花 三雲・井原遺跡から出土した弥生時代ガラス製品の自然科学的研究

西田 京平 近世鉛材料の産地と流通

松下 弥生 ポリエチレングリコール含浸法を中心とした水浸出土木材保存処理の歴史

米本 毅 縄文時代における北海道の落し穴

西村 康子 文化財修復に使用されるアクリル絵具について — 最適な使用条件とは —

松元 佑輔 種子島における製鉄と遺跡の現状 — 藩政時代の史料から独自の技術を検証する —

若佐 健二 大友氏遺跡から出土した金属製品における自然科学的研究

橋本 清美 福岡平野における甕棺墓の地域性について — その周辺遺跡出土甕棺との形態比較を中心として —

宮川 正史 古宮古墳の横口式石槨の研究

渡部 啓栄 須玖・岡本遺跡の研究 — 奴国の中心の詳細を王墓や工房跡・集落跡を研究し明らかにする —

早瀬 航 宮崎平野における首長墓の系譜について

宮城 淳一 沖繩のグスクについての研究 — 中城グスク・勝連グスクを中心として —

村子 晴奈 弥生時代の箱式石棺墓の分布とその背景について — 西北九州沿岸部を中心として —

原 英幸 周防の古墳から見る大和との関係について

宮城 毅 浦添グスクとその時代と背景

安部 智美 法要帳の集成作業 法要帳の研究 — 特にその分布を中心として —

稗田 貞臣 臼塚古墳出土舟形石棺における劣化調査

宮本 栄二 日田地方における在地首長の成立と展開 朝日天神山古墳を中心として

安楽 英敏 薩摩焼酎の歴史と文化 — 薩摩の風土とのつながり —

日野 智幸 津屋崎古墳群の特色について

本村 浩二 九州島における神子柴系石器の波及についての再検討 — 石斧を中心に —

井上 亜未 博物館の岐路 — 政治が及ぼす文化財への影響 —

廣川 明 磐井の乱について

森弘 康之 文化財と修復材料としての接着剤の劣化について

上田さやか 民間における加藤清正信仰の発生と展開 — 九州・熊本を中心

藤崎 翼 宇佐地方における在地首長の出現と大和政権 — 川部・高森古墳群を中心として —

文化財と修復材料としての接着剤の劣化について

生と展開 — 九州・熊本を中心

〈環境歴史学・民俗学専修〉

として―

甲斐 逸人 国東塔の研究 ―その立地と造

立の背景に注目して―

神谷 宙一 環境歴史学の視点に立った山城

の研究 ―大分を中心として―

菊水 寛 被差別部落に見る民俗文化

―おばあさんの思い―

近藤 慎也 高崎山自然動物園の問題点と今

後の課題

後藤 雅弘 緒方町の地神塔 ―その信仰と

歴史―

坂本 雄亮 鬼の伝承から読む地域文化

―九州を中心に―

澤田 一栄 国東塔 ―歴史と信仰とこれか

ら―

柴田 拓実 相良氏法度から見る中世の地域

社会と領主

柴田由美子 本草と採薬日記 ―高千穂採薬

記にみる賀来飛霞―

白石 由美 伊勢信仰の研究 ―伊勢参宮と

御師の活躍について―

白木 勇氣 沖ノ島の世界遺産登録について

坪根 法広 高度成長と変化

徳久 雄一 為朝伝説を読む ―為朝の軌跡

と伝説―

中川 理恵 呪符からみた中世の呪術の世界

―蘇民将来信仰―

中原 洋 島根県の文化財・観光が及ぼす

経済効果

野澤 淳一 麻文化について ―繊維植物と

その周辺―

野田頭善孝 小川原湖の自然と生業の歴史

福田 隆志 大分県の雨乞いについて

増田 晶子 江戸時代の災害と日記

宮本 剛 水利開発事業の研究 ―豊後地

域の事例とともに―

安田 豊 長門正吉郷の中世観 ―有光家

文書を中心に―

山村晋一郎 葬儀にみる日本人の死生観の変

化 ―各時代の墓制、葬送儀礼

から―

山本佳代子 鎌倉仏教の女性観と女人救済

陳 煜 上海の町並み景観保全と観光利

用

畢 大偉 中国の年中行事 ―山東省栄成

市の年中行事をもとに―